



2025.9.12 第10号

森田 博

5年「花から実へ」
ヘチマの花粉と受粉



ハチは何をしに花にやってくる？

5年生の「花から実へ」の学習では、4年生で育てているヘチマを使って、実になるためにはどのような過程が必要かを観察や実験を通して理解します。まずは、花のつくりの違いをアサガオと比べながら観察しました。



とにかくたくさんの花を観察し、子どもたちが違いに気づけるように実物と写真で比べていきました。

どうもヘチマには2種類の花が咲くようだと分かり、



花びらをめくったり、花の中心部をのぞいて見たりして観察をつづけました。(おばなとめばなの違い)

「おばな」には「おしべ」に「花粉」がたくさんついていることに気づき、「めばな」には、「めしべ」があり、ふくらんでいる部分（実になる部分）があることがわかりました。そこで、「花粉」はどんな形をし、どんな役割があるのかを、まずは顕微鏡を使って調べました。

※ちなみに、アサガオの花には「おしべ」も「めしべ」も一つの花の中にあります。(両性花)ヘチマは単性花です。



ヘチマの花粉 40 倍

ヘチマの花粉 200 倍

アサガオの花粉40倍

アサガオの花粉 200 倍

ハチは、この花粉を食べている？体に付けて巣に運んでいる？嫌な臭いを出して花が自分を守っている？ヘチマの実に栄養を与えている？人が近づかない？（花粉症から）いろいろな考えがでてきました。そこで、完全に開いていないめばなの先のめしべには花粉がついていること。大きく開花しためばなのめしべにはぎっしりと花粉がついていることを見比べ、花粉はおしべからめしべに運ばれることを知りました。これを「受粉」ということへ結び付けました。次回は、花粉が実になるために必要かどうかを受粉させる、させないという条件でめばなの変化を観察していきます。

